

4	3	2	1
<p>イリス「中でもマツリは、相当な幻術使い。幻で相手を翻弄して、戦わずして勝つ、を心情としています。性格も狡賢《ずるがしこ》くて強く、曲者中の曲者ですよ」</p>	<p>イリス「確かに、マツリもまた、目がきりりとした美女です。でも油断しないでください。キツネ族は身体能力こそたいしたことはありませんが、強力な妖術を使うことで有名な種族です」</p>	<p>アリス「キツネ族つ。名前を聞いただけでケモノ耳の可愛い女の子が出てきそうな気がするね！ うわ～、楽しみだなあ！」</p>	<p>イリス「ハーレムバトル、今日が一回戦ですね。今回の相手は、キツネ族のマツリと言います」</p>

5 アリス「そういう人ほど、抱いたときの乱れ具合がたまんないんだよね♪」

6 イリス「……試合前から気が抜けすぎてませんか？ そろそろ試合開始ですから、私は行きます。くれぐれも注意してくださいね」

7 アリス「わかってるわかってる。イリスちゃんとエッチするためにも、絶対勝つからさ」

8 イリス「これを勝てば次は決勝です。よろしくお願ひします」

13	12	11	10	9
アリス 「えつ！？」	ファン2 「アリスさん、試合前に押しかけてごめんなさい！」	アリス 「ふえ？ イリスちゃんが戻ってきたかと思いきや……あなたは？ ていうか、超美人！」	ファン1 「お邪魔いたします、勇者様」	アリス 「ふふふ♪早く出番こないかな♪。目がきりりとしたってことは狐目つて感じなのかなあ。気の強そうな美女つてことよね、ああ！ 楽しみ♪」

※se1 .. ガチャツと木製のドアを開ける音

14	ファン3 「前回の戦いぶりを見て、私達、あなたのファンになつちやいました！」
15	アリス 「うわ！？ 私のファン！？ つて、何！？ 次々に美女とか美女が控え室入つてくるんですけど！ もしかして天国！？」
16	ファン4 「ある意味そうなのかもしれんえ。わたくし達は、あなたに憧れを抱く者」
17	ファン5 「このたびは、アリス様に抱いてほしくて……やつて参りました」

22	21	20	19	18
ファン8「その通り、お願ひなお。私のこの火照った身体を… 好きにしてえ」	アリス「えへつ、えへへへ♪そんなん、裸で抱きついてぐるなん て…うふふ。ほんとに私に抱かれにきたんだね！」	ファン7「地球の勇者あ～つ」	ファン6「アリスさん」	アリス「ちよつ！？えええええ！？みんな服脱ぎ始めて！？」

26	25	24	23
<p>実況 「どうしたのでしょうか。間もなく試合開始ですが、アリス選手が現れなければ、ヒト族は敗退となってしまいます」</p>	<p>マツリ 「ほほほ。わたくしのお相手はどこで油を売つておられるのでしょうかねえ。このままではわたくしが不戦勝になつてしまますわ」</p>	<p>イリス 「……アリスさん、一体どうしちやつたのでしょうか。試合も、あんなに楽しみにされていたのに……。マツリはもうとつくに待機してゐるんですよ」</p>	<p>実況 「そろそろ試合開始時刻ですが……。今回注目のヒト族代表、アリス選手がまだ現れません」</p>

27 アリス 「待って待ってストップ！ お待たせー！」

28 イリス 「アリスさん！ 遅いから心配しました。今まで何をやつ

てたんです？」

29

アリス 「いやあ、私のファンって子がたくさん詰めかけてさ、
抱いてほしいっておねだりされちゃって……。だから全員イ
カせて満足させてきたとこなんだ♪」

30

マツリ 「なんてこと……。わたくしの幻術をただのエロテクニッ
クだけで破つたというのですか……？ あの人数を……それ
もこの短時間で全員？ まったく、馬鹿げてますわね……」

34 マツリ「さあ、わたくしの可愛い触手達、ヒト族の代表を犯し殺してあげなさい！」	33 実況「それでは！ 両雄揃つたところで、試合開始です！」	32 マツリ「ほほほ。そううまくいきますかしら？ 直に味わうわたくしの幻術は、甘くはありませんわよ？」	31 アリス「ごめんねーマツリちゃん、待たせちゃって。ふむふむ、いやあ、やっぱり狐目の気の強そうな美人さんだ！ それに耳とか尻尾とか生えてて、もふもふしてて可愛い！ このお姉さんもイカせたい！ 私もまだまだ興奮がおさまってないからね！」
--	---------------------------------------	--	---

39	38	37	36	35
アリス 「なんとかって言つても……うきやあッ！？ 服破られて つ、いつ、いきなり入れるつもり！？ ひぎイツ！？」	イリス 「それこそがマツリの得意とする幻術なんです！ なんと かして打ち破つて！」	アリス 「これが幻術！？ どう見ても本物だよ！」	イリス 「アリスさん、幻術に惑わされてはいけません！」	アリス 「ええッ！？ キツネ族は幻術使いだつて聞いてたのにつ、 気持ち悪い触手ッ！？ きやああッ！？ ぐつ、放せ！ うあつ、ぬるぬるしてつ、気持ち悪い！」

アリス 「濡れつ……でもないのにつ、アソコつ、ぐいぐい押し広げられる！？ 中に触手つ、入つてくる……！？ んぎイイツ！？」

マツリ 「ほほほ。その子はまだまだ、そんなものではありませんわよ？ ほーら、あなたのお尻の穴も狙つてますわ」

アリス 「はひツ！？ そんなつ、おつ、お尻なんてつ、ダメえ！」

入つてこない……ぐぎツ！？ い、つ、イイインツ！？」

アリス 「お尻の穴つ、強引に拡張つ、されでる！？ ぐひいいいンツ！？ 肛門、ぐっぽり広げられてつ、粘膜……グリグリ擦《こす》られながらつ、こじ開けられる！？ ンぐぐぐうツ！？」

43

42

41

40

47	46	45	44
<p>マツリ「公衆の面前でこんなにもよがるなんて、なんという恥ずかしい雌でしよう。ほほほ。もっと感じさせて、みすぼらしい姿をさらさせてあげますわ。触手達、やりなさいっ」</p>	<p>アリス「アソコとつ、粘膜越しにズリズリ擦《こす》れ合つて⋮⋮つ、ほぐつ、おおおんッ！？ たまんなひ！ ぐほつ、おツ、ン！」</p>	<p>アリス「ウルドさんの能力でつ、全部がつ、快樂に変換されるウ！？ ふぐおツ！？ おつほ！ 腸の壁つ、ゴリゴリ摩擦されるのつ、気持ちいい！？」</p>	<p>アリス「前の穴もつ、ズボズボされてるのにつ、同時に触手とアナルセツクスなんて！？ はぎイツ！？ 気持ち悪くてつ、痛くてつ、屈辱なのに……ぐひおツ！？ おふん！」</p>

アリス「ぐももツ！？ 触手がつ……」
「ぼおツ！？ 口にまれ！？
ぐこつ、おぼほンツ！？ やつ、やべえ、……！」

49

マツリ「あらあら、口を犯されても身体をビクビク痙攣させて感じ
るなんて。どうしようもない変態だったようですね。そ
のままイッてしまいなさいな」

50

アリス「へつ、変態りやなひイ……！ けろつ、おぶつ、ぐぶぶ
ンツ！？ ゴつ、ンゴオ！？ 喰まれつ、汚い触手れ……ゴ
リュゴリュされえ、つ、快感止まんなイ！？」

51

アリス「肛門も喉もつ、アソコになつはみはい！ おぐツ！？
ごぼぼぼオツ！？ どの穴もきぼぢらぐえ、！ んぼぶつ、
イグ！？」

55 マツリ「ほほほ。わたくしの幻術の前では、ヒト族の子など赤子の手を捻るようなもの。控え室の幻術は失敗しましたけれど、あれも興奮を煽るのに一役かつてくれましたから大成功ですわ」	54 アリス「ひぐッ！？ イグ！ ぐぶぶぶンッ！？ 三つのいやらひい穴同時攻めえ！ 触手攻めらべえええッ！！」	53 アリス「ごぼオッ！？ おぼつ！？ ぐぼぼオッ！？ らめつ、イグ！ 前の穴もつ、お尻の穴もつ……口いつ、喉も気持ちいい！ ひゆぐ！ イグんんんんッ！！」	52 マツリ「遠慮することはありませんわ。さっさとイツて、敗北しなさい！」
--	--	---	--

アリス「ばぶツ！？ ぼぶぶウ！？ こんなつ、ぎもぢいいける
つ……いやつ、らあ……！ イグイグううううツ！！」

アリス「がぶつ、あぶぶウツ！？ 何回もつ、イツでるウ！ れ

つ、れもオ……！ ぐごつ、おぼぼ！？ 違う……つ、違う
のオ……！」

アリス「ぶつつづば！ ゲホツ！ エホエホ！ ハアハアハアツ
……！ これじや……なつ、い……んんん！？ 気持ちよく
てつ、イグけどオ！ キュあああンツ！？」

マツリ「……なんということ。わたくしの幻術に、抵抗します
の……？」

59

58

57

56

63	62	61	60
<p>マツリ「なつ！？ 触手が引きちぎられる！？ わたくしの幻術 がつ、破られる！？ ヒト族の子に、そんな力が……ツ！？」</p>	<p>アリス「いっぱい愛撫してつ、はぐウ！ 吐息を絡め合つて…… あんん！？ んつあ、それから、おもつきり喘がせたい！ んんんんんツ！！」</p>	<p>アリス「触手なんてつ、愛がないもの……いらなひ！ くひンツ ！ ンツ、ハアツ、それよりマツリちゃんとつ、直にイ…… 肌を、重ねたい！」</p>	<p>アリス「私はつ、触手なんかに攻めつ、られるよりイ！ あひイ んツ！？ ハアハアツ、攻める方がつ、イイのお！」</p>

64 アリス「んんん、やああツ！！」

65 マツリ「はぐあ！？ くあああツ！ 完全に幻術をはね除けられ
た！？」

66 アリス「あ、あれ？ 触手は！？ ていうか、服も破けてない？」

67 マツリ「……なんというでたらめでしよう。まさか思いの強さだ
けで幻術を打ち破るなんて……。どうやらこの相手には、わ
たくしの幻術は通じないようですねわね……」

68 アリス「なんだかわかんないけど、よくも触手なんて悪趣味な
ものぶつけてくれたわね！ ちょっと痛い目みてもらうわよ
！ そのあとにいっぱいひいひい言わせてあげる！」

72	71	70	69
<p>アリス「ふう。これでマツリちゃんの幻術を体得したんだよね？」</p>	<p>実況「キツネ族代表のマツリ選手、戦意喪失！ 試合を放棄しました！ よって勝者は、ヒト族代表のアリス選手です！」</p> <p>※se0 ..たくさんの人人が歓声を上げている音※se0 ..魔法を体得した音(エナジードレインして身体に吸収したようなイメージ)</p>	<p>アリス「……あ、そう、なの？ ジやあ、私の勝ち？」</p>	<p>マツリ「いいえ。わたくしの負けですわ。幻術が効かないのなら、わたくしに勝ち目はありませんもの。痛いのはご勘弁ですし。それに、こんな大勢の前で破廉恥なことをされるのは、許容しかねますわ」</p>

イリス 「あはっ♪アリスさんお疲れ様です！ やりましたねっ、
これで決勝進出ですよ！」

アリス 「まあそんなんだけど……マツリちゃんとエッチできなか
つたし、私としては、ちょっと消化不良かも」

イリス 「あと一回勝てば、誰とだつてできるようになるんですか

ら！」

アリス 「おっと、そうだつたね！ イリスちゃんともできるし、
うふふ♪決勝も頑張るよ！」

ライラ 「へへん、やるじやねえか地球からきた勇者。その上やる
気満々つてどこが気に入つたぜ」

77

76

75

74

73

アリス 「……えと、どちら様?」

アリス 「あなたはシシ族の——」

79

ライラ 「ああ、オレはライラつてもんだ。よろしくな」

80

アリス 「うわく、すつぐく強そうな肉体。筋肉が発達してて、でも女人の人独特のしなやかそうなシルエットがあつて……それになんてグラマラスなボディ! おっぱいもお尻もおつきくて……ジユルつ。ああ、ぷりつてしながら柔らかそうなのがいい!」

82

アリス 「顔立ちも猫っぽい鋭さがあつて勝ち気な感じなのに、ものすごい美人! 美女って言葉、この人のためにあるのかも!」

イリス「ライラはシン族の王で、その実力は、一族の中でも群を抜いています。戦うために生まれてきたような人で、手強い実力者です」

84
アリス「へえ、王ってことは、女王様！？」確かに、エッチ方

面でもそんな感じするね。私と同じ、攻め好きの匂いがするよ」

85
ライラ「はははっ。好き放題言つてくれやがる。けど、オレを見

ても怯まないところも気に入つたぜ。オレと決勝で戦う奴がど

んなもんか、会いにきて正解だつたわ」

86
アリス「決勝つて……確かにライラさんは、まだ準決勝を戦つてないんじや？」

90	89	88	87
<p>アリス 「私は私にできることをするだけ。ライラさんのお手並み、見せてもらうわ」</p>	<p>ライラ 「何も起きないまんまに終わらせてやるさ。見てな、一撃で決めてやるよ。それより決勝戦だ。これまで戦闘でオレを昂ぶらせる奴はいなかつた。その点お前には期待してるぜ。オレを満足させてみろ」</p>	<p>アリス 「それは気が早くない？ 勝負は何が起ころかわかんないよ」</p>	<p>ライラ 「はんつ。準決勝になんて興味はねえよ。オレが負ける要素はどこにも見あたらねえ」</p>

ライラ「へへっ、いいぜ。楽しみにしてな。んで、しつかり目に
焼けつけてろ」

イリス「やはりシシ族の王、風格もプレッシャーも桁違いですね」

アリス「うん。ライラさん、あの人なら、本当に樂々と準決勝も

勝っちゃう気がする」

実況「さあ、こちらの準決勝戦も始まりました！注目のシシ族
代表ライラ選手は、今回もどのような戦いぶりを見せて——」

実況「ああー！ 実況の途中でしたが、ライラ選手の拳が炸裂——
！ 一撃で試合を終わらせてしまいました！ まさかの開始
三秒！ その強さは圧倒的です！」

95

94

93

92

91

96		97	98	99
<p>アリス 「ライラさん、ほんとに強い。あんな強い美人と戦えるなんて、楽しみだよ。あー、燃えてきた！ 開志ジンビン！」</p> <p>※se1 .. ガチャッと木製のドアを開ける音</p>		<p>マツリ 「(ハ)めんぐださな、アリス」</p>	<p>アリス 「きててくれたんだ。いらっしゃいマツリちゃん！」</p>	<p>マツリ 「ちやん、とは……。まあいいでしょ。勝者の権利として、敗者を好きにできるのは当然のことですわ。夜のねやへの呼び出しに応じるのもまた、負けた者の務め、ですから・</p>

アリス「そんなに畏まらないでよ。気軽にしてくれないと、私

もやりにくいしさ・

△

アリス「そう言われましても、よく知りもしない相手に、得るのもなく身体を弄ばれるのは、気乗りしませんわ」

101

102

103

104

アリス「ううう、闘志が漲《みなぎ》つちやつて身体が火照つて
るから野獣になろうと思つてたけど……そういうことなら我
慢、我慢……」アリス「……あら、わたくしを襲わないのですか？ 抵抗はしま
せんけれど」アリス「そういう問題じやなくつてね。無理矢理するのは私の気
分が下がつちやうの。だから抑えられるときはなるべく忍耐

！」

108	107	106	105
マツリ 「……は？ それだけ、ですか？」	アリス 「うーんと、イリスちゃんに出てほしいって言われたから？」	マツリ 「どうして、このソルアースの住人でもないあなたが、命を落とすかもしれないハーレムバトルなどに参加されるのです？」	マツリ 「……なるほど。どこかのがさつなシシ王とは、少し違うようですわね。ではアリス、そんなあなたにお聞きしたいことがあります」

112	111	110	109
マツリ「……なんてこと。わたくしには理解できませんわ。けれどアリス、あなたが真っ直ぐで、怪しい企ても練らない、ただのお馬鹿だということがわかりましたわ」	アリス「イリスちやんだけじやないけどね。大会で相手に勝つと、負けた人も抱いていいっていうし！」	マツリ「……つまりあなたは、あの小娘一人の肉体を見返りに、命を賭けていると？」	アリス「うん。優勝したら、イリスちゃんを好きにしていいって言われたし」

アリス 「おつ、お馬鹿は酷いよお！」

マツリ 「ほほほ。わたくしなりの褒め言葉ですわよ。アリス、わ

たくしはあなたに興味が湧きましたわ。あなたのことをよく
知るために、この身体を、あなたに預けても構いません」

アリス 「それって、エッチしてもいいってこと？」

マツリ 「アリスをわたくしに、存分に感じさせて下さな」

アリス 「うつ、うわ！ マツリちゃんみたいな可愛いお姉さんか
らそんなこと言われたらつ、私一気にテンション上がっちゃ
うよ！ 止まんないからね！」

117

116

115

114

113

マツリ「ほほほ。どうぞ……んむむつ！？ ちゅつ、ふちゅ、んふうつ。いきなり口付けをするなんて……せつかちです」と

アリス「私、たまんないからさ。もっとキス、しよ……！ んち

ゅつ、ちゅむ、ちゅ……つ。唇をついばむみたいにしてから

……擦《こす》り合わせる。ふちゅ、ちゅう……んんつ」

マツリ「ああ……つ。アリスの唇……とてもプルプルしていく、
するの気持ちいいですわ……つ」

アリス「ありがと。でももつと、気持ちよくするよ！ マツリち

やんの唇に、舌を割り込ませる……んりゅうツ」

121

120

119

118

マツリ「ふむンツ！？ 舌が、絡んれ……れりゅつ、ちゅるんつ。
じゅるウ。レロレロツ、舌同士が擦《こす》れ合うの……背
中がゾクゾクしまふわ……つ。じゅるン」

アリス「キスしながら……おっぱいも……！ んふう、直に、さ
わさわ……さわさわ」

123

124

マツリ「くむウン！？ 服の中に手を……！？ ちゅるつ、おつ
ぱい……撫でられ……！？ ひゅンン！？ グニグニ揉みし
らぐ、なんへ……！？ んくウ！」

125

アリス「ちゅつ、じゅるうつ。下のお口は……どうなつへるかな
……つ？ んつ、んん！ あつ！ 服の上からでも、湿つて
るの、わかるよ……！ 私とのエツチに、興奮してるんだね
」

マツリ「はふつ、ハアツ。わたくしの幻術で作り出した子達を、全員イカせただけのことは、はうんつ、ありますわね……つ。うう、あなたの愛撫、とても、身体の芯に響いて……つ、高まりますわあ……！」

127
アリス「ああ！ そう言われると、私も興奮しちやう！ ね、ね

つ、もうお互い裸でしょ！ ほらつ、脱いで脱いで！」

128
アリス「それからベッドに横になつて！ マツリちゃんが下で、私が上。シツクスナインね！」

129
マツリ「こ、これはちょっと……恥ずかしいですわつ。股間を見られるのは……まだいいとしても、あなたのあ、アソコまで……丸見え……つ」

133	132	131	130
<p>！」</p> <p>マツリ「ああっ、そんな脅し……。ハア、ハアッ、屈したくな りませんのに……。けれど、このまま気持ちよく……な りたいっ。アリスの、淫らなアソコ……舐めるつ、じゅるウ ！」</p>	<p>アリス「マツリちゃんも、私のいやらしいお口……愛撫して…… ！ 私はマツリちゃんのアソコに……しゃぶりつくから！ ちゅちゅう！」</p>	<p>マツリ「きやふンツ！？ そんなつ、本当にかぶりついて……！ ？ んひああンツ！？ 唇と舌でつ、肉穴の襞……舐め回し てはつ！？ ひやああ！？」</p>	

アリス 「あふんツ！？ んつ、くうう！？ そう、その調子……
！ マツリちゃんの舌、ザラザラしてて……粘膜がこそげて
つ、ン、気持ちいいよ！」

135

マツリ 「ベロツ、レロレロツ。そのつ、ザラザラの舌を……肉穴
の中に、差し込んで！ レリュツ、ジユツ！ れりよれりよ
！」

136

アリス 「んはあン！？ それつ、それそれ！ くつ、頭の中がジ
ーンつて重くなるくらい、快感がきてるよ！ はああつ、私
も……負けないようにしないとつ」

137

アリス 「もう、皮から飛び出してる肉芽《にくが》を……つ、舌
先で……チロチロチロツ！」

141	140	139	138
<p>アリス 「んっ、と。まだイツちゃダメだよ。もつともつと、気持ちいいの溜めてから、イツた方が気持ちよくなるからさ」</p>	<p>マツリ 「ひはああンツ！？ そこはつ、敏感なところですわ！？ あっ、ああ！？ ダメツ、です！ 身体が震えてつ、くふあン！？ 止まらなくなりますウ！」</p>	<p>アリス 「マツリちゃんはお姉さんなのに、可愛い！ クリ、ほんとに敏感だね。ほら、啜《すす》つてあげる。ちゅちゅうつ、じゅる、じゅうう！」</p>	

マツリ「そ、そんなこと……ンくひイツ！？ またクリをツ！？
あひひンツ！？ ジュルジュル音を立てて吸いながらつ、
ベロベロ舐め回すの気持ちよすぎてつ……いつ！ いひイツ

！」

143
マツリ「はふツ！？ ハアハアハアツ、い……イキそうちだつたの

に、またつ、止めましたわね……つ」

144
アリス「ふふふ。涙目になつちやつて、すつごく可愛いよマツリ
ちゃん！ まだまだ苛めたくなつちやう！ ジュルジュルツ、
ちゅじゅう！ チュルチュルチュルツ！」

145
マツリ「くひあツ！？ あつひツ！？ クリばかりつ、集中的に
されるのはつ、耐えられなひのです、わア！ 感じつ、過ぎ
てえ！ イク……つ、んんんツ、イク！」

149	148	147	146
<p>アリス「あああ！　涙ながらに訴えられると、ものすごくゾクゾクする！　マツリちゃん可愛すぎ！　うん、うん！　イカせてあげる！」</p>	<p>マツリ「はふっ、ううん！　お、お願ひですからつ、もう……イキそうなのつ、止めないでください！　あああつ、イカせてほしいのお！」</p>	<p>マツリ「ハアハアツ、じ、焦らさないで……ください！　そんなにされるとつ、はうう、頭がおかしくなつてしまいそうですわ……！」</p>	<p>アリス「ふふつ。まだお預け。ああうつ、卑猥な肉穴がヒクヒクして、中からどろどろの愛液噴き出してるつ。クリちゃんもビンビンに勃起してて……もうたまんないんだね」</p>

153	152	151	150
マツリ 「きやひいツ！？ クリとアソコつ、同時イツ！？ 中の肉つ、指でズリズリ—擦《こす》られて！？ イひいイツ！？ イクツ！ イクんんんんツ！！」	アリス 「うふふ♪今度はちゃんとイカせちゃうから！ クリちゃんをしやぶりながらつ、アソコに指を……んんんツ！」	マツリ 「はひひツ！？ いひイツ！？ すごつ、ひイツ！？ クリつ、吸われてつ、下腹部がピクピク痙攣しますウ！ ああん！ イク！ イクツ！」	アリス 「肉芽を、激しくしゃぶつて！ ジュロジユロ！ ベロロツ！ ジュロジユロ！」

158	157	156	155	154
マツリ「あふつ、ハアハアハアッ！ きつ、気持ち……よかつた ア！ はふつ、アリスう、あなた……最高、れすう……ッ」	マツリ「まだイッてますわ！ きやあああ！？ イクのつ、止ま りませんのオ！ ひああああッ！！」	アリス「いっぱいイッていいよ！ 私の指、いやらしいお口でキ ュンキュン締め付けてつ、イキまくつて！」	アリス「腰持ち上げてつ、ビクンツビクンツて跳ね回らせて！ あああつ、可愛い！ 私も興奮する！ はあんッ！・ あッ！」	マツリ「アリス！ アリスう！ 気持ちいいですわ！ わたくし つ、イッてますウ！ アソコとクリつ、イイ！ ひあああ あッ！」

アリス 「ふふふ。ふう、ありがと……。マツリちゃんもものすゞく可愛かつたよ……。ハアツ、またしようね……」

※se1 .. 雷鳴

アリス 「うわ、雷まで鳴ってきた。マツリちゃんが嵐になるつ

て言つてたけど、ほんとに当たつた……。マツリちゃんを先に帰しといてよかつたよ」

アリス 「ふああう……はあう。外は雨も風もすゞいし、疲れ

ちやつたから……もう寝ちゃおつと。おやすみ~」

※se1 .. 鳥のさえずりなど、朝を連想させる音

ウルド 「アリスお姉様、おはようございます」

162

161

160

159

167	166	165	164	163
アリス「そつか。壊れちやつたのは残念だけど、自然現象が相手 じや文句も言えないもんね」	ウルド「そつなんだ。だが、魔神伝説はお伽話。祠は大会が終わ つてからでも新調すればいいし、たいして気にすることもな いだろう」	アリス「祠つて、あの魔神を封印したつて言つてたやつのこと?」	ウルド「ああ。どうやら祠に雷が落ちたらしいな」	アリス「ウルドさん、おはよう。昨日の嵐はすごかったみたいね」

ウルド 「それよりお姉様……昨日はまた、別の女を呼んでいたようだが……」

アリス 「あ、ウルドさんまたヤキモチ？ ふふ、可愛いんだから」

ウルド 「アリスは、私のお姉様なんだから……他の女とイチャついてるのが気になるのは、当然じやないか……つ」

アリス 「ああ！ 顔を赤くしながら唇を尖らせるウルドさん、ほんとに私の心をくすぐるわあ！ いいね、いいね！ もう抱き締めちゃお！ ぎゅう～～～と！」

171

170

169

168

ウルド「あんん！ お姉様あ～！」

※se0 ..たくさん的人が歓声を上げている音

173

実況「ソルアースにおける部族の頂を決めるハーレムバトルも、いよいよ決勝戦を残すのみとなりました！ 決勝に駒を進めたのはやはりというべきか、注目選手のこの二人！」

174

実況「地球から召喚されたヒト族の代表、アリス選手。対するは、シシ族の代表にして現女王、ライラ選手です。本日も大会史上に恥じぬ名勝負となることでしょう！」

175

ライラ「はっは！ この日のためにたっぷり気合いを溜めてきたぜ！ アリス、お前を軽く捻ったあと、オレに服従するまで犯し尽くしてやるからな！」

179	178	177	176
ライラ「はん！ 幻術の触手なんぞ洒落臭え！ オレにこんなもんが通じるかよ！」	アリス「いくよ、ライラさん！ マツリちゃんからもらつた能力……幻術発動！ いつけ、触手達！」	実況「さあ、ハーレムクイーンがこの一戦で決まります！ 皆様、刮目しましょう！ それでは試合、開始です！」	アリス「エツチできるのは嬉しいけど、私はライラさんが可愛くよがる姿を見たいから、勝利は譲れない。勝つのは私よ！」

アリス 「うつわ！？ 触手を引きちぎりながら真っ直ぐ突っ込んでくる！？ ほんとに効いてない！？」

ライラ 「あつたりめえだ！ オレにはお前しか映つてねえからな、

アリス！ どりやあッ！」

※se1 .. タンつとパンチやキックを身体でガードする音

アリス 「くううッ！？ なんて重い一撃なの！？ こっちにきて、
私も基礎能力が上がつてははずなのに！ でもつ、スピード
なら……！」

ライラ 「動く暇なんぞ与えねえよ！ 捕らえた獲物逃さねえ！
それがシシ族の戦い方だ！ だりや！ てや！ おりやああ
！」

183

182

181

180

※se 1 .. タンツとパンチやキックを身体でガードする音

184 実況 「もののすごい打撃戦だ！ あーっ！ アリス選手、ライラ選手のラッシュに捕まってしまいました！ 防戦一方です！」

185 アリス 「あぐッ！？ くッ！？ 攪乱『かくらん』したいのにつ、

一撃一撃が重すぎて、次の動作に移れない！ ガードしてても、その上からダメージがくる……！ 痛みはないけど……

このままじややられちゃう！」

186 ライラ 「おらおらどうした！ 防御ばつかじや、オレが勝つちま

うぜ！」

187 アリス 「そうは、させない……！ 凍て付く拳！ だあッ！」

※se0 .. 繰り出したパンチが対象にヒットした音

188 実況 「氷で固めたアリス選手のパンチがまともにヒット！ ライ

ラ選手、これは効いたか！？」

189 ライラ 「くへつ、やつぱいい攻撃持ってるぜ！ だがそんなんじ

や、まだまだ軽い！ うらあ！」

※se1 .. タンクトパンチやキックを身体でガードする音

190 アリス 「が！？ くつ、ダメだ……！ まともに入ったのに、意

にも介してない！ ガードも氷で固めて、エナジードレイン
にもなってるはずなのに、それも効果がないなんて……！」

」

191 ライラ 「また防御か！ なら遠慮なくいくぜ！ そんなもんがい
つまでもつかな！ おらつ！ おらアつ！」

※se1 .. タンとパンチやキックを身体でガードする音

アリス 「くッ！？ ああ！？ ダメージと、痛みから変換された快感で……足下がふらつく！」のままじややられちゃう

！？」

ライラ 「そろそろおねんねの時間だ！ おりやあああ！！」

※se0 .. 繰り出したパンチが対象にヒットした音

アリス 「—— だッ！？」

実況 「あーと！ ついにライラ選手の攻撃に耐えかねたアリス選手、大きくバランスを崩した！」

200	199	198	197	196
アリス 「あ……あれつ？ 攻撃がこない？ あ！？ もしかして つ、これのせい！？」	ライラ 「——なツ！？ ひつう！？」	アリス 「ぐつ、うツ！」	ライラ 「これでつ、終わりだああ！！」	アリス 「まざい！」

ライラ「なんてつ、奴！？ く……あ、どきくさにまぎれて……つ、オレの尻尾を……掴むなんて……！？」

実況「これはライラ選手の不覚だー！ シシ族の唯一の弱点を、

アリス選手に握られてしましました！」

アリス「弱点……！ 苦しまぎれにおもつきり掴んで引っ張つち

やつたけど、うわ！ めちゃラッキー！」

ライラ「くつ、そ……つ。力がつ、抜けるう……！ 尻尾……放

せえ……！」

アリス「運も実力のうちだし、このチャンスを逃す手はないわ！ ふふふつ、ライラさんがギブアップするまで、しつかりエ

ロエロに攻めてあげる！」

205

204

203

202

201

209	208	207	206
<p>アリス「やめろってわりに、身体はビクビクって気持ちよさそうにしてるよ？ こんなおつきいおっぱいなのに、感じてくれて嬉しいよ！ れろれろンッ！ ちゅるん！」</p>	<p>ライラ「はひイツ！？ やめろつ、そんなにおもつきり……舌で転がすんじやつ、くああンッ！？」</p>	<p>アリス「ライラさん、思つた通り可愛い声♪それに意外に乳首が敏感なんだね。じやあもっと、舌先で転がす……チロチロチロツ！ レロツ、ベロベロベロん！」</p>	<p>ライラ「なつ、よせ！？ こらつ、服を脱がすな！ はひツ！？ ぐつ、ういいいん！？ いきなり乳首つ、ああつ、舐めるなあ！」</p>

アリス 「乳首舐め舐めしながら、下のお口も攻めてあげる！ 股
ぐらに手を忍ばせて……！」

ライラ 「あっ、くああ！？ 同時になんて……！？ くふつ、あ
！？ 穴の割れ目、指をすり付けるな……！ ああン！」

アリス 「おんなじ匂いを感じてたけど、ライラさんてかなり感じ
やすいんだ。ほら、もうアソコの口から、いやらしい液が垂
れてきてる」

ライラ 「くそお……！ 好き勝手……弄びやがって……！ ひあ
あ！？ 肉穴の中に指入れて！？ はつ、くハあ！？ クチ
ユクチ ユ音させながら、搔き混ぜるの……やめ……つ！」

213	212	211	210
-----	-----	-----	-----

アリス「ふふふ。ほんとに感じやすいやらしい身体なんだね。
あ、こんなに感じやすいのを隠すために、攻め役をやつてた
りして？」

215

ライラ「うつ、うるさい……！ いいから早くつ、ハアツ、あつ
ぐ！ 尻尾、放せよ！」

216

アリス「あは♪ 図星みたいね。じゃ、敏感な肉体にもつと快感を
教え込んであげる！ でもまずは、ライラさんに可愛くなつ
てもらうために……つ」

217

ライラ「おつ、おい……つ、尻に向かって手を振り上げて……何
を！？」

アリス 「ふふん、わかつてゐくせに。スパンキング！ んツ！ ん、ツ！」

※se0 .. お尻をバシバシと何度も引っぱたく音

ライラ 「ひ！？ く、うぐ！？ ケツ、叩くの、やめろお！

あぐン！ まさか、女王のオレが……別世界の勇者なんかに、ケツをはたかれるなんてえ……！」

219

220

アリス 「その屈辱が、あとあと気持ちよくなつてくるから、や！ んんツ！」

※se0 .. お尻をバシバシと何度も引っぱたく音

ライラ 「うひ！？ ぐひん！？ な、なるかよ、そんなもん……！」

221

……！」

218

アリス 「そういう風にし向けるんだよ。ほーら、今度はここを指先でコリコリつて転がす！」

ライラ 「ひきイツ！？ それつ、クリ……ツ！？ くひア！？

痛い刺激のあとにつ、いきなり感じるとこつ、強く刺激する
のは……！？ ひああ！」

アリス 「うーん、いい声だよライラさん！ まだまだ鳴かせてあ

げる！ ふん！ ン、！」

※_{SE}0 ..お尻をバシバシと何度も引っぱたく音

ライラ 「ひぎヤツ！？ ああ！？ 今度はつ、痛みイ……！？
くつそ、オレの身体で、遊ぶんじや、ね……ツ！？ ひひン
ツ！？」

225

224

223

222

※se0 お尻をバシバシと何度も引っぱたく音

アリス 「お尻叩いたあとはつ、肉芽をキュツキュツて摘み上げる
……！ 指と指の間で……シコシコ、シコシコ……じくくツ
！」

ライラ 「んぐひいツ！？ もう痛いのか気持ちいいのかつ、わ

けがわからんねえ！ あひひイツ！？ こんな感覚つ、初めて
え……！ やめて、くれえ……！」

アリス 「ふふふつ。懇願するライラさんにめちゃ興奮しちやう！

私も我慢できなくなつたから……つ、貝合わせ……しよ！」

ライラ 「うああ！？ アソコとアソコ、寄せ合つて……つ、擦《
こす》り合わせるウ！？ ひあつ、ああんツ！？」

229

228

227

226

233	232	231	230
<p>ライラ 「ひやつ、ひやめエツ！？ そんなにしたらつ、オレはつ、もう……もう！ ダメだ！ インンンンウツ！？」</p>	<p>アリス 「ライラさんの悲鳴、最高に昂ぶつちやう！ ほらつ、ほらつ！ いっぱい腰くねくねさせて、クリつ、可愛がつてあげる！」</p>	<p>ライラ 「はああンツ！？ くひツ！？ イひンツ！？ 腰、くねらせるのはつ、まずい……！ オレのクリがつ、思い切りすぐれてるウ！？ ひいいツ！？」</p>	<p>アリス 「太腿も、絡ませ合うの！ んくつ、んあ！ ああつ、ライラさんの肉の穴のつ、入り口のビラビラが……つ、ハアツ、私の入り口に吸い付いてくる！ あんつ、気持ちいい！ もつと、ぬるぬるになつた粘膜同士……すり付け合うの！ んんウ！」</p>

アリス 「あらら、ライラさんがイツちやつた。私はまだなのに…。
…。私が満足するまで、付き合つてもらうから！ んくつ！
くんん！」

234
ライラ 「今イツてるのに！？ ひひひンツ！？ やめつ！ クリ

擦《こす》りながらつ、アソコもクチヨクチヨ、すり付ける
なア！」

235
アリス 「だつてライラさんが感じてる姿、とつても可愛くて興奮

するんだもん！ 止めらんないよ！ んあ！ ああ！ 私も
気持ちいいからつ、腰、捩《よじ》らせるウ！ んん！」

236
ライラ 「ひぎイツ！？ ダメらつ、またイクツ！？ ひあああッ
！？」

241	240	239	238
<p>アリス「はあん！？ 私もイク！ 肉芽からいやらしい穴の入り口まで、ライラさんの股間にすり付けて！ んんんっ、イクううううううううッ！！」</p>	<p>ライラ「あひひンツ！？ バカ！ そんなにクリ、摩擦したらっ、オレが耐えられ—— イグイグうううツ！？」</p>	<p>アリス「んくツ！ ああンツ！ イツきそう！ ひあツ！？ 私のクリちゃんも、くりゅくりゅつて擦《こす》れてつ、気持ちいツ！ イクツ！ イクツ！」</p>	<p>アリス「イツても許さないからね！ んんっ、私もイキそだか ら！ ンン！ くああ！ ハツ、ぬちよぬちよつて卑猥な音 鳴らしながらつ、アソコ同士一擦《こす》り付け合うのつ、 最高！」</p>

245	244	243	242
アリス 「て、あれ？ ライラさん……？ はふっ、ふう……っ。 完全に気をやつちやつてる……。そんなに気持ちよくなつて くれたんだ……。はあ、すっごく嬉しいよ……」	アリス 「はふっ、ハアハアハアッ！ あうう、気持ちよかつた あ……！ ライラさんみたいな美女を抱けて……おもつきり 興奮しちやつたよ……」	ライラ 「ふひ☆いっ、イ……っ、あっ、ああ……あ……ク……あ ……つ……」	アリス 「あつ♪あツ♪気持ちいい！ イツてるウ！ ライラさん のアソコっ、最高だよお！ いいいンツ！」

247

アリス「はあ……。なんとか優勝できた。ライラさんの攻撃力アップのバフ能力も、ちゃんとコピーできだし。何よりこれで、可愛い女の子達を抱き放題！ 戦いの疲れなんて吹っ飛んじやうほどテンション上がるう！ さてさて、イリスちゃんはどこかな？」

246

実況「なんとなんと！ あれだけ戦いを優位に進めていたライラ選手が、一つのミスで戦闘不能に！ よつて勝者は、地球からやってきた勇者、ヒト族のアリス選手です！ そして、今大会のハーレムクイーンも、彼女に決定いたしました！」

※se0 ..たくさんの人人が歓声を上げている音※se0
..魔法を体得した音(エナジードレインして身体に
吸収したようなイメージ)

251	250	249	248
アリス「だからいいんだって。私が大会に出た理由なんて、めつちや不純だしさ」	イリス「ふふ。そうでしたね。アリスさん、このたびは、優勝おめでとうございます。いえ、ヒト族のため、命を賭けて戦いに挑んでください、本当に感謝しております」	アリス「いいのいいの。アリスちゃんなら大歓迎！ 祝勝会の方が疲れたくらいだよ。みんなお酒飲み過ぎて悪ふざけが過ぎたよね」	イリス「お疲れのところ、寝室にお邪魔してすみません」

254	253	252
<p>イリス「嫌だなんてとんでもない！私はアリスさんのこと……</p> <p>とても、お慕いしております。ですから私を……抱いて、く</p> <p>ださい……」</p>	<p>アリス「そうそう！でも、アリスちゃんが嫌なら言つてね。無</p> <p>理矢理つて、私の趣味じやないから」</p>	<p>アリス「ハーレムクイーンになつてくださつた暁には、私の身体</p> <p>を差し上げる、ということでしたね」</p>